



令和3年度 事業報告書

学校法人 支倉学園 ファッション文化専門学校 DOREME



目次

I 学校法人支倉学園

i 沿革	2 - 3
ii 設置する学校等の所在地	3
iii 役員の概要	3
iv 評議員の概要	3
v 理事会・評議員会の開催状況	4

II ファッション文化専門学校 DOREME

i 学校の教育目標	4
ii 設置する学科と学生数	5
iii 教育の充実	6-8
iv 学生募集	8-9
v 学生支援	9
vi 就職支援	10
vii 教職員の概要	11
viii 施設・設備	11-12
ix 地域貢献・社会貢献	12

III 財務の概要

(別添資料参照)

I 学校法人支倉学園

和装から洋装へと歴史的な転換を果たした先駆者のひとり故杉野芳子先生の教育精神を慕い、昭和15年に初代校長菅野貞子が「宮城ドレスメーカー女学院」（現ファッション文化専門学校 DOREME）の看板を掲げた。当時は和服姿の生徒に正しい洋服の縫製や着こなしを指導するために、洋服の下着作りから始めなくてはならなかった。その後太平洋戦争では材料不足や軍からの圧迫を乗り越え、戦災を受けた焼け跡から初代理事長菅野忠雄と共にミシンを掘り起こして授業を再開した。昭和55年には学校法人の名称も、江戸時代初期に海外に雄飛した支倉常長の壮図にちなみ「学校法人支倉学園」とし、未来にはばたたく人材を育てるような教育を実践してきた。翌年には泉区加茂に「めるへんの森幼稚園」も開園し、奉仕の心で世の為に喜びを還元しようとする精神の元、支倉学園の発展の礎石をゆるぎなく確立させてきた。さらにファッション業界のニーズを読み取り、平成22年には昭和56年より続いていた「専門学校創表現研究所 est」を統合。洋裁だけにとどまらず、ファッションビジネスやメイクアップ、ジュエリー制作等を通して現在も更なるファッション人の育成に尽力している。

本学園は、自分の目と頭と体と感性を使い、作業、行動を通して、創造し自分で考えることのできる若者を育てることを目標とし、技術だけでない人格教育に力を注いできた。また、昨今の社会情勢を鑑み、教育の底流にある人間教育、思いやりや相手を尊重する気持ちを育てる教育について学園をあげて取り組んでおり、努力・礼節・明朗をモットーに徳育を重視した専門教育と幼児教育を行っている。

i 沿革

年月	概要
昭和15年	仙台市一番町に宮城ドレスメーカー女学院創立
昭和18年	戦時下のため宮城洋裁女学院と改称、芭蕉の辻に校舎移転
昭和20年	仙台空襲で校舎全焼失
昭和21年	仙台市連坊小路に再設立
昭和24年	仙台市常盤丁に校舎設立
昭和26年	私立学校法による「学校法人」に組織変更昇格
昭和44年	仙台市支倉町に宮城ドレメビル完成
昭和51年	専修学校制により宮城ドレスメーカー専門学校と改称
昭和55年	創立40周年を迎え「学校法人支倉学園」と改称
昭和56年	泉区加茂に「めるへんの森幼稚園」創設 学校教育法第1条校に昇格
昭和57年	仙台市支倉町に「専門学校ファッションビジネスカレッジ」設立
昭和60年	「ファッションビジネスカレッジ」を「創表現専門学校 est」に改称 向陽台高等学校技能連携指定校となる

平成 16 年	校名を「ドレメファッション芸術専門学校」に改称
平成 22 年	「専門学校創表現研究所 est」を統合
平成 26 年	校名を「ファッション芸術専門学校 DOREME」に改称
平成 29 年	校名を「ファッション文化専門学校 DOREME」に改称
令和 2 年	創立 80 周年を迎える

ii 設置する学校等の所在地

【法人本部】【ファッション文化専門学校 DOREME】

〒980-0824 仙台市青葉区支倉町 1 番 33 号

【めるへの森幼稚園】

〒981-3122 仙台市泉区加茂 2 丁目 24 番 2 号

iii 役員概要（令和 2 年 6 月 1 日現在）

【理事】 定員 6 名 現員 6 名

理事長 菅野 敦子（ファッション文化専門学校 DOREME 校長）

理 事 伊勢 千春（めるへの森幼稚園 園長）

理 事 小幡 賢二（有限会社コラボレーション・マル 代表取締役社長）

理 事 菅野 麻那（学校法人支倉学園 法人本部長）

理 事 檀崎 孝志（株式会社エクシード 取締役）

理 事 鈴木 忠泰（医師） 令和 3 年 2 月 25 日 辞任

理 事 丹野 敏夫（司法書士・行政書士）令和 3 年 2 月 26 日 就任

※選任根拠条文・50 音順

【監事】 定員 2 名 現員 2 名

監 事 丹 義秀（遠山青葉印刷株式会社 代表取締役副社長）

監 事 菊地 英子（会社役員）

※選任根拠条文・50 音順

iv 評議員概要

【評議員】 定員 16 名 現員 16 名

菅野 敦子 伊勢 千春 小川 恵美 菅野 一磨 菅野 麻那 西條 綾子

佐竹 恵子 中村 武好 及川 壮也 檀崎 孝志 豊島 文彦 尾崎 行彦

小幡 賢二 鈴木 忠泰（～令和 3 年 2 月 25 日） 武井 教使

丹野 敏夫（令和 3 年 2 月 26 日～） 針生 庸一

※選任根拠条文・50 音順

v 理事会・評議員会の開催状況

(1) 令和2年度理事会の開催状況は以下の通りである

	開催年月日・開催時間	出席	委任状	欠席	監事の出欠
第1回	令和3年5月28日 16:00~17:30	6人	0人	0人	2/2
第2回	令和4年3月28日 16:00~17:30	6人	0人	0人	2/2

(2) 令和2年度評議員会の開催状況は以下の通りである

	開催年月日・開催時間	出席	委任状	欠席
第1回	令和3年5月28日 13:30~15:00	15人	0人	0人
第2回	令和4年3月28日 13:30~15:00	15人	0人	0人

II ファッション文化専門学校 DOREME

i 学校の教育目標

創立80周年を迎え、社会と共生する教育機関として、創立者菅野忠雄、貞子の理念を継承し、未来に向けての若者たちの育成、新たなファッション人の育成に更に尽力する。オリジナル性の高い専門教育サービスを提供し、未来を創造する感性・発想力を備えた創造的表現者を育成する。

Dream (夢力)：学生一人ひとりの夢に向かって夢と目標に近づきます。→将来に向かって夢を実現するための努力を惜しまず、日々向上できる精神力と実行力を持つ人

Revolution (革新力)：自己変革、新たな破壊と再構築。自主自立。立ち向かう強さを養い表現の自由を追求します。→自己変革、革新を忘れず、発達の豊かさや表現力に磨きをかけ、常にチャレンジする人

Message (発信力)：若い感性と創造性を「心」と「かたち」で伝え、すべての人たちに幸せになってほしい気持ちを込めて努力します。→世界や文化に目を向け、ファッションにできる事を発信し、明朗活発に率先して行動する人

本校のアドミッションポリシーを再確認し、学生だけでなく職員もが日々成長していける環境作りを徹底する。そして学生達の夢と希望を叶えられるよう、企業と連携し、実践的な教育を実施し、時代が要請する高度な専門性を持った即戦力となる人材を育成する。

【本年度に定めた優先課題】

- ・創立80年を迎え「伝統と革新」を武器に、入学生数の増加を全職員の目標とする。
- ・オープンキャンパスの充実化と魅力ある学校作りのアウトプットに尽力する。各種 SNS やメディアとの連携を深め、学校外への露出を増やして、学生獲得につなげる。
- ・AO 入学制度の宣伝を強化し、早期の学生獲得、やる気のある学生獲得を実現させる。
- ・服飾、ファッション教育の伝統校としての学科教育内容、企業と連携した各科目における実践的な教育の実施、企業実習、演習、企業の講師による講義など業界で即戦力となる学生を育成する。
 - ・ファッション業界に必要とされる基礎的な知識、技術、感性は、もちろんのこと、カリキュラム、企画、生産、販売へと流通業界にも通じるファッションビジネスにも力を入れ、専門的、創造的な職業人と人間教育の場として更に確立する。また、「今、ファッションにできること」をテーマに、地域の産業振興に寄与する。
- ・コロナ禍における就職難を乗り越えるべく、学生就職支援に尽力する。
- ・退学者を減少させるべく、手厚い学生サポート体制を敷く。退学を決めてから知るのではなく、不満や不安要素の段階で解決できるよう、ヒアリングと職員間の連携を強化する。
- ・学費納入については昨今の経済状況と東日本大震災の影響により厳しいものがあるが、特待生制度や入学時における授業料の減免制度を周知していく。また、高等教育の修学支援制度を活用し幅広い学生支援で、経済的に困窮している学生の救済を行う。
- ・職員の職場環境も改善し、必要な部門に手が届くような仕事分配をする。ムリ・ムダ・ムラの3Mを取り除き、古い風習や体制を変革していく。
- ・「菅野貞子」コレクションの発信をし、80年の実績を伝えていく。
- ・次世代職員の採用、育成強化。

ii 設置する学科と学生数

<R3 年度学生数>

学科	修業 年限	昼夜 別	入学 定員	入学 者数	総 定員	在籍者数		
						計	男	女
デザイン造形学科	2	昼	25	17	50	29	1	28
スタイリスト学科	2	昼	20	7	40	15	3	12
ファッションビジネス学科	2	昼	25	14	50	19	6	13
アーツ&クラフト学科	2	昼	15	1	15	2	2	0
クリエイター学科	1	昼	15	8	15	8	6	2
服飾デザイン学科	2	夜	募集停止中					

※令和3年5月1日現在の数値であり、学校基本調査(文部科学省)の数値と一致する。

<R4年度学生数>

学科	修業 年限	昼夜 別	入学 定員	入学 者数	総 定員	在籍者数		
						計	男	女
デザイン造形学科	2	昼	20	19	40	34	3	31
スタイリスト学科	2	昼	5	3	10	9	2	7
ファッションビジネス学科	2	昼	15	17	30	27	12	15
アーツ&クラフト学科	2	昼	5	2	10	2	1	1
クリエイター学科	1	昼	5	6	5	6	2	4
服飾デザイン学科	2	夜	募集停止中					

※令和4年5月1日現在の数値であり、学校基本調査(文部科学省)の数値と一致する。

iii 教育の充実

<ファッションの専門教育とキャリア教育を融合した教育課程>

入学 【AO入学、特待生、ファッション特待生】



1年次

ファッションの専門知識・技術・感性を徹底的に学ぶ	社会人基礎力・コミュニケーション能力を養う(キャリア教育・行事)
学科別授業	校内企業ガイダンス、特別講義
各種検定、デザイン画、造形デザイン	進級制作発表会



2年次

アドミッションポリシーの体現: Dream/Revolution/Message を実現させる社会人の育成。学生自らが主体的に考えて行動する。
キャリア教育: 学生1人1人に合わせたキャリアプランをキャリア教育担当者の面談を基に作成。細やかな支援を実施。
卒業制作: 学内統一テーマ【MODE×RENAISSANCE】を基に各自の作品を計画的に制作、プレゼンテーションスキルや企画書制作スキルも養う。
ファッションショー: せんだいメディアテークにて大規模ファッションショー。学生主体で制作・運営する過程から、主体性を身につける。



卒業

【就職、進学(クリエイター学科)】

【アドミッションポリシー】

Dream (夢力)：将来に向かって夢を実現するための努力を惜しまず、

日々向上できる精神力と実行力を持つ人

Revolution (革新力)：自己変革、革新を忘れず、発達の豊かさや表現力に磨きをかけ、

常にチャレンジする人

Message (発信力)：世界や文化に目を向け、ファッションにできる事を発信し、

明朗活発に率先して行動する人

①教育指針

創立 80 周年を迎え、改めて本校創設者菅野貞子の生きざまを顧みた。約 80 点もの菅野貞子コレクションを修復、整理し、公開することで、改めて彼女の強いバイタリティーと先見の明を感じることができた。時代が移り変わっても「ものづくり」や「ビジネス」の現場において、「向上心」は大変重要である。知識や技術だけでなく、自らが高みを目指し、それに向かって努力する姿勢を養わねばならないのである。そして菅野貞子は非常に「対人能力」も高かった。コレクションに使用した生地は海外から特別に取り寄せたものだったり、アシスタントスタッフは全国各地集まったりしていた。それはファッション業界で大変重要なことであり、時代が進むにつれコミュニケーション能力と名を変えて、ファッション人の必須スキルとなった。本校のアドミッションポリシーに掲げる Message は発信力とし、本校で受けた専門教育を世に発信していくことのできる人材を育成したいという想いが込められている。本年度はこの Message を学校目標とし、向上心とコミュニケーション能力を育成する教育プログラムを実施する。その結果として就職率・進学率を判断基準として、充実したキャリア教育に取り組んでいく。

②令和 3 年度における特色ある教育活動

■地域企業とコラボレーションしたオリジナルブランド制作

→仙台三越の協力にて、SDGs をテーマにしたオリジナルブランドの企画・制作を行った。

上級学科であるクリエイター学科の特別カリキュラムとして、企画から縫製、広報、販売まで一連の流れを全て学生で行った。重要課題である SDGs の「つくる責任・つかう責任」を重視し、着回しの効くスカートや年齢を重ねて体型が変化しても似合うスカートなどを販売し、地元企業である白石ポリテックス工業とのコラボレーションも行い、地域活性化にも繋げる事ができた。河北新報など各種メディアにも取り上げられ、ポップアップショップに来店した高校生も入学し、学校広報にもつながった。売り上げも目標金額 10 万円を大きく越え、30 万円達成することができた。

■地元縫製工場との連携強化

→宮城県白石市にある「白石ポリテックス工業」との連携を開始。プリーツの専門工場として多くの有名ブランドの商品を手掛けている。実際にクリエイター学科の学生が工場見学へ伺い、パーティードレス用のプリーツを施した。今後も産学共同を強化する。

■仙台 89 ERS チアとへの衣装提供

→仙台市地元バスケットボールチームである仙台 89 ERS のチアリーダーの衣装制作を行った。89 ERS の SNS やホームゲームでも紹介され、広報に繋がった。

■みやぎの力アート&クラフトフェアへの参加

→仙台三越主宰の催事で、学生参加は初である。宮城県内で活躍するハンドメイド作家が集い、出店するイベントであり、クリエイター同士の繋がりやお客様への対面販売の難しさ等を体感させることができた。今後も継続出店出来るよう、仙台三越との関係性を構築していく。

■学生も教える体験を(プレスクール)

→学校広報の一環として入学希望者を招いて、授業体験をしているが、学生にもアシスタントとして人に教えることの難しさ、喜びを体感させ、モチベーションを向上させる。

iv 学生募集

①AO 入学の継続

学生の早期獲得と入学後のミスマッチを防ぐために AO 入学を昨年度より採用。

本校を専願とし、出願者本人の個性や意欲などの人物像を、本校が求める学生像に照らし合わせて合否を決める。合格後はオープンキャンパスの複数回参加とレポート等の提出、特別授業を通して、入学準備を進める。

→今年度は昨年度よりも多く 22 名応募、全員合格、22 名入学した。

→入学決定後何度かの面談を通して学科変更をするものもあり、ミスマッチを防ぐことができたといえる

②オープンキャンパス

前年度より実施しているプレスクール、春季・夏季に開催しているオープンキャンパスの参加者は例年通りであったが、そこからの歩留まりを上げることが最重要課題。同分野の競合校はより一層募集活動に力を入れることは必然であり、本校も募集活動のより一層の向上が必須である。出願対象者から厳しい目で競合校と比較検討されることを考え、本校の強みの伝え方に工夫が必要である。教務と広報担当者との連携が必要不可欠であり、より一層協力体制を敷ける様、教職員の意識改革に臨む。

③結果と課題

前述した教務と広報担当者の連携はもちろんのこと、体験入学参加者の母数を増やすことは継続した課題であり、メディアとの連携や地道な SNS の更新も重要である。効果的な広報方法を精査し、伸び率が期待できる方法に注力していく。また、

高等学校との信頼関係構築は学生募集には欠かせない重要部分である。高等学校に向向いての模擬授業は効果的であり、今後一層力を入れるべき部分である。今年度はAO入学25名合格したが、3名の辞退者が出ており、全員経済的な理由での辞退であったが、1名でも多くの入学者確保の為、対応策が必要と考える。

v 学生支援

①退学者

学科名	退学者数	理由
デザイン造形学科	2名	精神的疾病
スタイリスト学科	1名	進路変更
ファッションビジネス学科	3名	進路変更、学業不振
アーツ&クラフト学科	1名	精神的疾病
クリエイター学科	0名	

※令和3年5月1日現在の数値であり、学校基本調査(文部科学省)の数値と一致する。

②結果と課題

前年度比ほぼ横ばいである。元々高校時から不登校であったり、オープンキャンパス未参加で、学ぶ意識の不明確な学生も多く入学している。本年度は特に精神的疾病を抱えている学生が多く、入学後すぐに不登校というケースが多くみられた。

ジェンダーやメンタルヘルス等、配慮の必要な学生は出願段階では分かりかねる悩みを抱える学生の対応を検討せねばならない。高校時に欠席が著しく多い学生や、オープンキャンパス未参加の学生には、入学前面談を実施しているが、強化が必要である。入学後はクラス担当制を実施しているため、細やかな面談を行い、人間関係問題や本人の悩みの早期発見に努めている。また、宮城県障害者就労支援センターと連携を取り、教職員のメンタルヘルス研修も実施している為、今後も継続して、せっかく夢を持って入学した学生達を精一杯支援していく。

③学生会「ドレメゾン」の充実

入学生アンケートにより、ドレメの進学を決め手で最も多かったのが「行事の充実」であった。本学のSNSでの行事発信の効果が高いことが分かった為、コロナ禍でも開催できる行事を増やし、魅力的な発信方法を検討する。

v 就職支援

①就職率

学科名	卒業者	就職者	未決定	進学	就職率
デザイン造形学科	12	7	1	3	88%
スタイリスト学科	7	7	0	0	100%
ファッションビジネス学科	5	4	0	1	100%
アーツ&クラフト学科	1	1	0	0	100%
クリエイター学科	8	5	1	2	100%
計	33	24	2	6	98%

※就職希望者=就職者+未決定者

※就職率=就職者÷就職希望者

②主な就職先

ラルフローレン(株)、白石ポリテックス工業(株)、(有)オйкаワデニム、
(株)フジ・スタイリング、東洋ワーク(株)、(株)ヤングファッション研究所、
(株)ヤマダヤ、(株)ビックママ、(株)アンビテックス、(有)リヴォルーション、
(株)オズファインクロス、(株)アズノウアズ、(株)ジョイフルまるやま、(株)福島産業、
(株)ファッション・ルシエ、(株)メンズアキタソーイング、(有)ビズ・カンパニー 他

③結果と課題

コロナ禍とはいえ、希望者は好成績で終わることができた。オンライン面接時の注意点やメイクのポイントなど各学科で力を入れて指導できた結果が出たと言える。今後は更にオンライン面接も増えてくるため、通信環境の安定と、学生サポートが必要となると考える。また、厚生労働省主宰のジョブカードセンターとも連携し、入社後も辞めない、キャリア形成を考えたいうえで、入社後のマナーやコミュニケーションスキルの構築などの社会人教育にも力を入れた。今後も継続して95%以上を保てるよう、丁寧な指導に努めていく。今後はより一層就職難が見込まれる為、1年次から自己分析や業界分析等に触れさせ、迷いのない就職活動が出来るよう努めていく。

viii 教職員の概要

①教職員数

	常勤		非常勤	
	男	女	男	女
校長		1		
教員	1	6		
講師		2	3	10
計	1	9	3	10
助手		1		
事務職員		3		
その他職員	1			
計	1	4		
総合計	2	13	3	10

※令和3年5月1日の教職員数を記載している

※教員の人数は、専修学校設置基準が定める要件を満たす者を算定している

②教職員研修

【ファッション業界研修】

令和3年 6月 工場研修（白石ポリテックス工業、東京ファッション）

【職場意識向上研修】

令和3年 8月 ペーパーレス化、DX化研修（リコージャパン）

令和3年 10月 キャリア講習

【キャリア指導向上研修】

令和4年 1月 租税講習

ix 施設・設備

① 大規模修繕・購入を行った施設・設備

- ・令和3年2・3月に起きた大型地震によって暖房設備が損傷し、ボイラーの撤廃によるエアコン設置工事を行った。また、電気代増加を予測し、一部照明のLEDへの入替も行った。
- ・令和4年3月に起きた大型地震の影響で再度校舎に損害が出ている。廊下や教

室内等目につく箇所が大きく破損したため、早急に修繕が必要。
令和3年度に修繕した同様の壁面が大きく崩れた為、同様の修繕ではなく、
対策が必要である。崩れた壁面がある廊下は学生の避難経路となっている
ため、安全確保が必須である。また、第2校舎の老朽化が著しく、
安全面に不安が残る為、耐震診断や耐震補強等計画的に行っていく予定
である。

x 地域貢献・社会貢献

SDGs への取り組みが重要視されている中で、本校では以下のテーマを強化している。

3. すべての人に健康と福祉を
4. 質の高い教育をみんなに
5. ジェンダー平等を実現しよう
11. 住み続けられるまちづくりを
12. つくる責任つかう責任
13. 気候変動に具体的な対策を
17. パートナリーシップで目標を達成しよう

上記のゴールへの取り組みを対外的にも発信していく。

III 財務の概要

別添資料のとおり